

八木の偉人 谷三山

没後 150 年記念事業 2017.12.3 開催

■講演会 橿原文化会館（小ホール）

「今に残る八木の町並みと遺品からみる谷三山の軌跡」

■谷三山没後 150 年記念フォーラム「谷三山—大和八木が生んだ『日本一の大学者』」

谷山 正道氏

・個別発表

桐原 健真氏（金城学院大学文学部教授）

吉田 栄治郎氏（柳沢文庫研究員）

黒岩 康博氏（天理大学文学部講師）

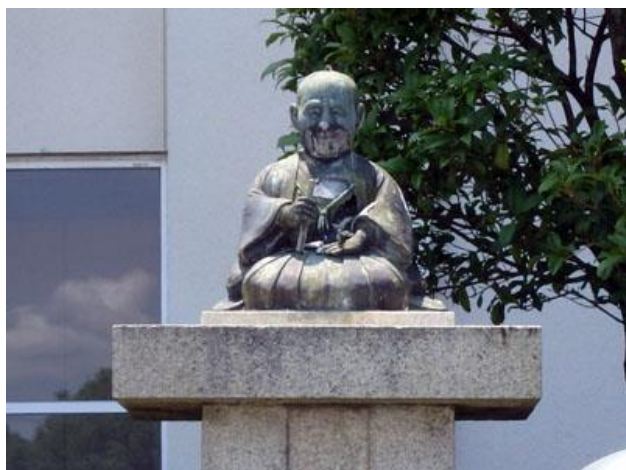
・ディスカッション

「谷三山研究会」奈良県立大学ユーラシア研究センター

その他

■現地ウォーク（八木町地内）谷山正道氏（前 天理大学文学部教授）

■遺品（パネル）解説（八木札の辻交流館）



胸に空いた穴、修繕してあげて！晩成小学校の谷三山造 170727



ユーラシア研究センター情報誌「EURO-NARASIA Q」第7号に「幕末大和の大学者谷三山の足跡を追う」と谷山正道先生のお話が掲載されています。



今井「菴横」【はないらか】にある谷三山顕彰碑

吉田松陰と谷三山

140124 朝日新聞によると、吉田松陰（1830～59）の辞世の句のひとつが見つかったそうで、たった29才で散った吉田松陰が谷三山からもいろんな

意味で影響をうけていたことが重く感じられました。

「此程に思い定めし出立は
けふきくこそ嬉しかりける」

辞世の句はほかにも

「身はたとひ武蔵の野辺に朽ちぬとも
留め置かまし大和魂」
「親思う心にまさる親心
けふのおとずれ何ときくらん」

がある。

いずれも刑死の前の心情である。

谷三山は吉田松陰より 28 才年上、親子ほどの年の差ですね。自分を慕った健康体の若者を、57 才の谷三山が見送ったこととなります。140124

近世江戸幕府の安定を受け、推進される文教政策により、「儒教」「国学」「洋学」などが藩校などで学ばれる中、ここ八木には、幕末における大和一といわれる学者「谷三山」(1802~67) が出現します。

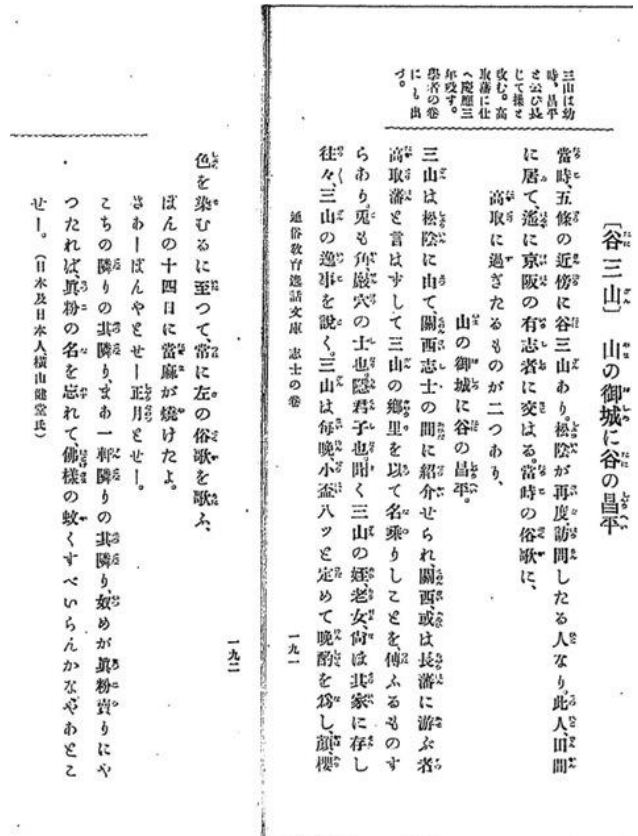


金台寺

今では、八木一番の有名人です。幼少時に耳を患い、やがて視力もなくす苦境にめげず、家塾「興讓館」を開きます。「頼山陽」「吉田松陰」などとも交流あったといわれています。いっぽうこのころ庶

民は「寺子屋」通いとなるわけですが、八木では「金台寺」の名が寺子屋開催地としてあがっているようです。教育熱心な八木の風土は、街道沿いの町として世界の風を感じる立地にもあったのかもしれない。080428

志士の巻

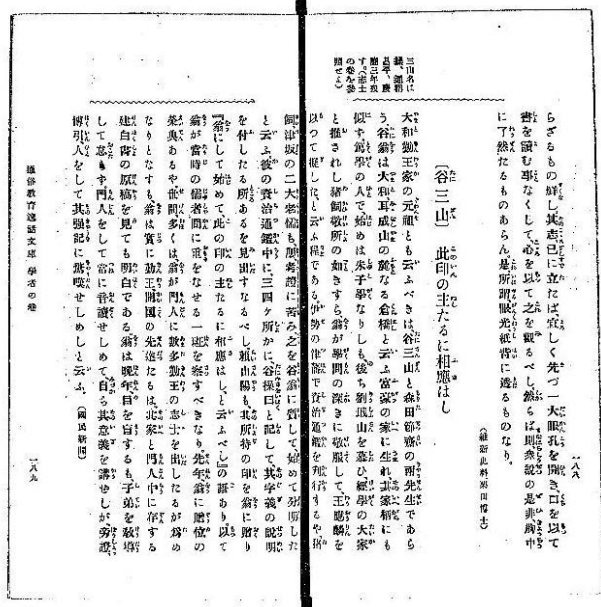


逸話文庫 通俗教育 志士の巻 (通俗教育研究会編 東京:大倉書店, 明44) [谷三山] 山の御城に谷の昌平 (「武士の巻」「志士の巻」「詞人の巻」「学者の巻」「婦女の巻」に分冊刊行) のうち「志士の巻」所収。同巻にはほかに高杉晋作、坂本竜馬、西郷隆盛、伴林光平、高山彦九郎、蒲生君平、吉田松陰らが並ぶ 170415

学者の巻

逸話文庫 通俗教育 学者の巻 (通俗教育研究会編 東京:大倉書店, 明44) (同巻にはほかに中江藤樹、貝原益軒、新井白石、本居宣長、平田篤胤、吉田松陰、森田節斎らが並ぶ 110603

その他、学界乃偉人(天囚西村時彦著 東京:梁江堂書店, 1911)に詳細に、また郷土文叢 青年読本(奈良県教育会編 東京:修文館, 大正6)にも紹介されています。



五條市史 上 五條市史調査委員会編 五條市史刊行会, 1958-1987

谷三山先生印譜 奈良県高市郡教育会編 奈良県高市郡教育会, 1916

谷三山 西村時彦編. 西村時彦, 1908

谷三山先生遺文録 今西伊之吉[作成], 19-- (今西文庫, 写本:第5輯).

聾儒谷三山 大伴茂著. 平凡社, 1936

『愛静館筆語』に見る幕末二儒の頼山陽観

ちなみに現在の谷家当主の書籍です。



「英語」は日本人には聞こえない (幻冬舎ルネッサンス新書 2016-12-01)

谷 道央

谷三山に関する書籍

三山谷先生遺稿 奈良県高市郡教育会編 (断片ですが真筆付きあり)・・・没後 50 年にあたり出版されています。今から 100 年前の書籍です。付録に直筆の書 (断簡) がついています。

聾儒谷三山 平凡社 (1936 年) 大伴茂

谷三山の尊皇攘夷思想について 大月明

三山先生遺稿 奈良県立図書館蔵 今西文庫 今西伊之吉

伝記谷三山 谷三山百年祭記念事業推進会 (1966 年) 堀井義治・・・この年晩成小学校で遺墨展が開催されました。橿原市制 10 年の節目、谷三山没後 100 年を記念するものでした。

谷三山と吉田松陰の出会い 卜部 和義 著 八千代書房 堺屋出版部(1974 年)

御通写留 今西伊之吉[作成], 19-- (今西文庫, 遺品古写本:第3輯)

蔭涼軒日録抄 今西伊之吉[作成], 19-- (今西文庫, 写本:第18輯)

校注愛静館筆語 野木将典著 近代文芸社, 1992